

5. 対応や声かけ

(1) 特別の仕事を与える

皆と同じ活動ができないとき、同じ場所にいることを目標とします。そこで、本人が興味を示すことを「特別任務」として与えます。例えば、そうじ中であつたら、いらぬ紙をきれいに折って整とんする仕事。授業中に、小さな積み木を使つたら、そろえてならべる仕事など、その子だけをお願いするという形で、その場に置きます。

(2) 実験用具は、専用で用意する

実験等、グループで共有して活動する際、道具を独り占めしようとしてトラブルが起きます。同じ班の子は、活動をする機会を奪われてしまいます。そこで、実験の道具等は専用で使えるものを用意します。自分専用として一人で実験ができるので、トラブルは起こらず、他の子の学習機会も保証することができます。

(3) 他の子に迷惑をかけるよりは、読書を認める

発達系の子は、読書好きが多いです。読書をすることで、騒々しさから逃れようとしているのかも知れません。他の子に迷惑をかけたり、離席をして教室外へ飛び出たりするよりも、本人の現状を見極めて、読書で教室内に留めた方がよいこともあります。

(4) いらいらした気持ちを紙に描かせる

いらいらしていて教室にいられないときに、別室に連れ出します。個別で課題をやればよいのですが、そういうときばかりではありません。そのときは、いらぬ紙を一枚与えて、好きなことを書かせます。ぐじゃぐじゃにして描いてもよしとします。イライラした気持ちを、図に吐き出させると、気持ちが落ち着くようです。

(5) 周りと同じことを求めない

周りの子と同じことを求めないようにします。一律に同じことをさせようとすると、本人にとっても教師にとっても非常なストレスとなります。基準に幅を持たせ、許せる範囲を広くとる心構えが必要です。

(6) 苦情への対応

周りの子たちから苦情が寄せられることがあります。叩かれる、暴言を吐かれる、ものを触られる、など。その都度、指導はしますが、すぐに改善は見込めません。相手が、嫌だと思っていることは伝え、謝らせるところまで、無理に求めません。

苦情を言った子の気持ちにより添い沿い「痛かったんだね。ごめんね。」と教師が謝る場面があってもよいです。そうした対応を周辺の子が、繰り返し見ることで、本人への接し方を理解します。

(7) 言い分を聞き、相手に要望を伝え合う

トラブルが起きたとき、該当者だけ呼びます。外野には、口を挟ませません。話は「相手が」「どうした」と一文一義で尋ねます。途中の経緯ははつき

りしなくても、結局のところ「相手が」「どうしたのか」だけを話させます。およその概要が分かったところで、これから相手にどうしてほしいのか「これからこうしてほしいこと」だけを言わせます。両者が共にお願いを言ったあと、他に教師に伝えておきたいことがあるかどうか尋ね、なければこれで終わりとなります。

(8) 話の終わりに「ね」「の」をつける

子どもが話しかけてきたときに、言ったことを繰り返して最後に「の」や「ね」をつけます。話の語尾に「の」「ね」「なんだ」をつけて繰り返すと、子どもは安心して、続きを話します。例えば、「あの公園行ったことある。」「そう、行ったことあるの。」のように言葉の終わりに「の」をつけると、子どもは安心して「この前ね… ○○したんだ。」のように続きの話をします。「いつ行ったの?」「誰といったの?」と先回りして聞かない方が、いろいろと話をしてくれます。

(9) 無視する、スルーする

授業中に教師が話していても、お構いなしに自分の興味関心を持ったことを話してきます。気になるので、たしなめるなど、そうした不規則発言に反応してしまいがちですが、敢えてスルーします。完全に無視することで、いっても無駄なことがわかり不規則な言動が減ります。

(10) ノート忘れば紙を用意し、無駄に叱らない

発達系の子は、ノートを持って来て、最初のページから順番に使っていくことは難しいです。最初からノートと同じ形式のノート用紙を大量に印刷してお

きます。忘れる度にこの紙を与え、授業が終わったら預かっておきます。ノートを持って来たときには、預かっていた紙を返し貼らせます。ノート忘れに対しては、他のノートに書く、自由帳に書く、何かの紙に書くなど様々な方法がありますがノート様子を用意しておく方法は、ノート用紙の配布、回収だけなので無駄に叱ることがありません。

(11) 座っている時間を約束しておく

1時間じっと座ってられない子がいます。本人と担任が、座っている時間の目標を立てます。15分、授業の半分、30分など、目標を決めてそれ以上の時間は、立ち歩きもやむなし、とします。立ち歩いても、周りの子への暴力、授業妨害以外は、見守ることとします。

(12) おしゃべりしていたらその場に立つ

おしゃべりをしていて、何度注意しても止めないときに「タイムアウト」と言って、学年×1分間、その場に立たせさせます。自分で時計を見て、時間がきたら座るようにします。

(13) 暴れたときの取り押さえ方

子どもが暴れたときに、背面から両腕を回して抱きかかえることがあります。このとき注意しなくてはいけないのは、子どもが頭を後ろ方向に振り、頭突きを食らうことです。パニックに陥った子どもは、恐怖から逃れるために必死になって抵抗します。

頭突きを食らわないように自分の頭を下げて、後ろから両手首（甲の側）をつかんで押さえます。肩甲骨が内側に引き寄せられるので、頭突きを防ぐことが

できます。

(14) 外靴を隠す

校地外へ出て行く子の場合、所在不明となることを避けなくてはなりません。興奮して教室を飛び出たら、担任はすぐに校内電話等を使って連絡をします。連絡を受けた級外部（職員室、事務室、保健室）は、まず本人の外靴を隠します。外靴がないことで、外に出るのをためらいます。それでも出ていく子は出ていくので、靴箱前で校地外に出ることを防ぎます。

(15) 写真、動画を撮るよ

いくら注意しても、離席を止めない、おしゃべりを止めない、ちょっかいを止めないとき「写真／動画を撮って、家の人に見てもらおうよ」とカメラを見せると止める場合があります。こうした証拠を残されることを嫌がります。実際に撮影するかどうかは、慎重に判断します。